俳諧

一茶發句集

上

六

東京帝國大學圖書之印

宗永法中新雜

梅花詩

一茶翁句集

東都畫林　山崎屋佐兵衛

上野国佐野郡本所宿場のいちば
をうりハ屋も所せしおきて極貧
なるかゝ或ハ家業より鍋の時以ておかれ
ゝを平店屋ゟ所ゟ家をもたれ
かゝるみ料ハ是を料てしゆゑ
大きへて結事事世をいとやすけふ
をこ物をゝのうち四方遠国ハ先
みハ寄後吸法人口平法条事ゟの
多し一数白文事ゟもきを物平隆ひ

頃を弱き濫をうきまもる和ゆのう
仮宅一世の俳諧ゟ
の多黄泉ハ家ゟ
集りて及古物ゟ
多のきのこしなれハ以ものゝ法云業ゟ
ゆうきゟ物きゟしゆゟハのきくゟ
みゟんゟすゟをゟからゟて白葉以て
寄ゟれ以て物ゟ迷きく蔵板ゟのゟみの
ゟて世平れ和平仕ゟる紙をゟ

此輯何某の撰にまかりて刪補せ
しを不雑なるものゝいつはりけるの集
にまさる句他の耳底に残りまさりて記清
息やうなたとへにけるまさりぬ出来へ
てはまのやさしく始よ清くまさき筆を
とりしらん

弘化丁巳孫生

継述孫一具

一茶発句集上

春の部

元日や上々吉の浅黄空

元日も立のまゝなる屑家かな

春立と申ばかりの上野山

出蔵ゝのうら筋違にさしつる日かな

夢の以本庵やゝも今朝の春

何とて家の世方に生まし明の春

罡麿

春立や百のうへなる百のうへ

新歌賀

春立や面おもたかく四もとの
梅の香立のくる窓の軒
初空くもり出る物ゝの音窓のうめ

芋屋 二句

菴の春森を廣る程を霞哉
我春を上へ告やく先の茶
立時の井を出る女梅木の
うゝゝゝゝゝゝゝ
茶水のうしろ人手汲ゝ

茶ゝゝゝゝゝと待き四梅の香
菴業や唯立文乃序代社松
蓬業み弟長くと云ふ待つの水
富士の画る
初春や子代社先ゝみ立ゝ
初春も月出ると云ふ人乃殺
出茶の山中ゝ遠ゝ
我ち弟法清僧の新ゝ物の香
福ゝゝや十きつゝ形る仕奴
小児のゝ仕ゝ

かゝ物ゝの細てきくぬ門の松
稜葉て芝よ歩ゝ宝とゝのゆゝれ
打てきき牡丹もつまりゝ宮い
小松引人とゝく人のおゝの毛ゝ書
我屋や帝きの手ゝ元ゝ来数
初夢よ梅も不二ゝ屋ゝ森やゝ武
逃ゝ寄やゝゝ祝ゝ五十聲
大聲やゝゝ色ての御等案
明梅よ赤ン日きてゝきゝれ
鶴の画ゝ

人の夷小きつゝよ代やきゝみきん
賜葉の梅よゝゝゝ等葉ゝゝ
姫乃や蓍の前ゝきゝゝき
天神系
きゝゝゝ麻上下や梅のきゝ
梅の木や歌ゝゝ新きゝゝの月
梅打や盛ゝきゝゝゝ大聲ゝ
梅の木ゝゝかゝゝ山家ゝれ
辞組ゝ一きゝゝきゝゝゝゝ
きゝゝきゝよ咲ゝゝゝ世ゝ数の梅

梅年月のやどりかくれぬるうらみを
嘉吉八年のころ行のくらの梅の花

園十帝

咲くらん位ぞ生ぬきのうえ先の花
梅折やさ宮のまうち新法師

信濃元業

赤の梅さよ行のうち如の梅の花

相馬覚古

梅この多やし新玉の法自来
梅きらやし庵玉の春無先は

月の梅酩の出んまやのうちの春
笠きらやし先の咲日を告は水

山学よりも先清らし
新雪を蓋ぬ行く雪を

二宗制の稲岩平　うす梅の花
下戸村や京人うらうら先の花
五梅やうつとしの小二本まで
梅の茶壺を盗めとすす商の
牧うら鶯と人を法華寺梅の茶

高原

入口は赤の牧のあるとく狩うれ

皮剥う婦の柳長き哉

蕎麦ひいきらいやさし柳

四柳を宮ゝ引て遠へ行

人参ゆゝて老も柳の形

犬の子は物も成る柳うれ

市ゝ人ゝて烏も柳の弟

蕎麦咲る雲雀

白猫のやゝ老も柳も市蕎の形

市象山

蕎も親子は先や柳ゝも

二日月や物ゝ柳ゝ蕎の

蕎ゝ行ゝの行ゝ行ゝ柳れ

紙の柄ゝ蕎ゝ小柳ゝ

蕎は目利して行く我蕎の形

芝居乃上蕎を四合の形

蕎は柳ゝ侍ゝ組屋鋪

神下ゝ乳蕎や小せゝ越

松宮ゝ

蕎は絶ゝ柳ゝの蕎柳れ

蕎ゝや泥行ゝ柳の蕎

[illegible]

[illegible]

閏正月

正月の[illegible]

老僧法衣画

彼の[illegible]

牡丹井清

[illegible]

[illegible]

紫野[illegible]

牡丹餅を喰ふて霞島の[illegible]

霞日や山[illegible]

霞日や志[illegible]

撰[illegible]

霞市[illegible]

業[illegible]

法つの霞[illegible]

[illegible]

老牡[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

某母八十八寄人[illegible]

門番[illegible]宋の字[illegible]雲[illegible]水

雲解[illegible]八[illegible]雀乃中五日

[illegible]雲[illegible]

稲の屋[illegible]雲[illegible]

雲解[illegible]雲[illegible]

世[illegible]

[illegible]の雲[illegible]

八前[illegible]雲[illegible]

三月[illegible]

[illegible]八[illegible]三組一所[illegible]

[illegible]八[illegible]墓の[illegible]

芽出[illegible]

[illegible]

[illegible]八の[illegible]

[illegible]

[illegible]の来る門[illegible]山乃[illegible]

[illegible]

初午

花の世を学ぶ孤明み事り
篇も持ち参り日よりそつ参拝
教ふ八直しく為る法度のれ
山焼の明りよりて教毎り火
畑打やるこの遠歩り法しを
畑打や田の帰りを辺りを
一年を美方の親を書ふを
老人の方へ
出代や汁の実なるも蕎麦
出代や明りも如しの物を
出代の市ふ法や五十貫

二月十五日雪降る
昔の明り法の重の涅槃
法師もんや法りを年出の十五日
かりを八昔り法を涅槃仏
森を如を仏よ出の降る
森を数を大夫を猫り意
蕎麦を美の意を猫の意
門番の明を猫や法を意
如を法を引直法を猫
を法猫を妙を焼を寒り

恋猫のねくのしゆうちぬつ庵ゆきまゆ
うこの外猫とのつきけて又来てさます
行のけ能諸侯に首を出や小田の原
彼岸とて袖に追すなる風しらぬ

板橋

かしましや江戸見さ原の帰り様
春之路の原も能き御帰る原

寛政二年四月とふ日白雲
衛おうりぬれハ新吹くく
坂地御首にけ。のもて見
清びて例の角田堤みての家
来まわのしと共うらくれ吹
小叢小家ハ吹まらくらりき

しのうたにのあらせのみよや
川の西に天地丸赤しく吹
うこの見て田中ハ新のみるを
作りくをま垣をたとしさく板鍬
見てしてわのしたる画を待吹
見えそりの様にあるの草木に
ゆうりきま雲に似し清く先を
度み代とくゆふくをを見て待る

五百崎や御舟来のんで帰る原

蕎咲る

昇誰にいふや雀も親子連
雀子や川の中にて親を呼
雀の子そこのけ〱御馬が通る
草に咲梅にはいきとや親まゝめ

我と家を造りや親の大切に雀
雀子や如何ぞ朱の塗りくく
蒸然たれハ巣を出るく雀の子
雛子なるやきの山焼れ千代の松
雛子なるや見る山の色やうみ
夕雛子のそゝ宮詣りや時の鳥
黒つやゝかるみく雛子形参
雛子のきや若草より信濃やう

猫住

如何なるみちを猫の

牧中なる若草の嫁姫
新なる屋敷年明姫
向ふみ姫の明るきを出の形
見るなる姫の嫁淋しく嫁姫
我を見て若草の嫁姫
意いのるや猫を屋敷明姫
玉川やまの古先へ嫁のハつ
明るきを山を見る姫の形
世帯なるなる踊きよ嫁姫
雛さなる猫を嫁姫

我庵や蛙移るを見て暮る春

菊影

影絵の古風を捨ぬ夕涼

夕べ有我が望みのうらもなく

豆めしを炊く庵の雲雀哉

樸素の子はいつくやら夕べ哉

野大根出るとなりの時雨哉

出れば蛇は世話をする時雨

神風や蛇の出るまで山の巻

小男蕊年を拭いのまん角の蕊

小男蕊の蕊しを角を拭いの称

角出るて和しを年なり山の蕊

牽牛

おんなじ〳〵妹は赤屋羅漢のれ

妹和や生世は雲なるかやうに年

出るまでや生涯恋しかや恋の妹

大猫の屋屋でなるかなるの角

妹高でや蕊でなるきなる屋乃先

蕊うらうらなる妹の生涯年の

四は細はんん蕊の小妹のれ

四の妹子の這つハ姫さくハ妹さ
小男若も妹さ
妻の妻も初て
俄白さ
右の信もしてもさ屋さも他生の縁
橋本町上人
阿弥陀仏
うもうの中の一節
出家さも恒るさ
阿弥陀仏
親の点

出家さも浮世月
阿弥陀仏
弟の妻さ
美しき弟の
我前さ種さ
かまさ
藁の出も
阿弥陀仏
小垂水
峰行者出家

かゝる程いの業の去時年ゝ
大業小業時ゝ去時候
春の日や夢ゝも尽ぬる春山
こ世いの業ゝ去時や去る時
雀ゝゝゝ新根越ゝゝ春の雨
新市ゝ大仏ゝゝ春乃雨
帰留の赤元結や去る時雨
餅買年新掘竹や春の雨
春雨年大欠去る美人の姿
紙ゝ年の恒の燈しや去る時雨

春雨や時ゝ時ゝ時の鐘
春雨新宅
高城ゝゝ嵐ゝ春ゝよ去る時雨
燈籠
春雨や初年初生時初の雁
春雨や嵐の為春田川
元義の中ゝゝの以春時雨
貝ゝ時蔵ゝ好ゝ去るの雨
婚以年人ゝゝ雨
春上侍ゝゝ去世侍義の雨

水江長者

長者時や姫ん生れた月
法の姫とのの二文字しや長の月
行くしは永久なれと四季の移
長屋やとなる住居の赤子履
宮引き女出産の産屋
老母れの日の永久なる流の移
雪の中に牛を曳出されれ
長屋や牛まれの行く長先
長者の姫の産屋の産屋

物いの嵐とる先より生るれ屋

不思の池より蓮の葉
出芽なる行くなる年
蓮芽出芽年等年乃
永の日を流しや時や池の蓮
永日や牛に池乃一里わ
物くこの世やはくこの芽も餅
我宮を行くもの仏芽立有
好くや時よりをよりの出
堤も出るれ芽立有
手の中なるよの芽立有

上巳之新

俗風之如意の為に毛以毛以まつれ
雛けを毛為のも上座之毛毛れ之
茶碗無之の山の春も雛まつ宝
盃よりつ流之三月廿日
菖蒲流し初り山盃流し春之
川下毛果之宝之のか盃
人の祝年祈も雀毛汐干之れ
如病行醫
茶毛新物之よ水し志毛茶

上十四

出のこの年市春之人出歩きの春り
かり活之春之ふきの春の信
三月十日保科信
花ちる毛之行る本信か開帳
人群之之一人り茶力信
おとろ一毛出之新まる口春茶
出の末年雛春毛涉茶之
歌舞伎紙
見之の先出の之宝之行信通り
山の月出盗人出照し之か

世はいつかうつろひ他人はあらそひて
法をもてあそぶ　ゆゑやむものかな

刈萱堂

苅萱の世をも地蔵もさとりも親子のわれ
苅の本はりつゝ生ぬさ果報のわれ

大和尤
苦をうけ人間をさとりあり

かなしきは迷ひよ迷ひの雲
その世や物もなしん笠
こゝやうゝ我はあるよう関をいのれ
苦の海傳やこの森あはれく迷

さるこゝろ病をもつのみ出えうみて
新告京

行脚
行脚をもやあるの雲
法師

桂宮の腮をもてる桜の木
桜くくあるこゝろ出ん出ぬ
一本は桜ものもうの海の役
出やうなる末世を桜くくけのみ
人参りまあるこゝろうさくら
拳より桜のけのあるもの

さるや散ハ汲しの八重さくら
袖にけの初も櫻咲けり花の事
山櫻ほを剣ぬいて咲ぬ花吹雪
傘に風くりと付し櫻への枝
夫とのこても降るやうに櫻への花

花や八町髯太の蒔 麻上下
前の日より鉤し金花さま
このれさりくしけりとて止むさそ
とて望の命待ちその八咲く
花のひとし来くりし午年
懐手に元集く咲やそれく
あれハ花の連 宗竟の句花手
太のきま

櫻く咲き唄ぬし老木の春
一枝さ手櫻ハさくらちりぬれ
下くの生ひて散もさくらの名残
小坊主や一釈の搏しぬ山さくら

雛難哉

姉さんとや櫻の花を持参のと
櫻草ハ似る鬚をとりて
我國にて草も櫻を咲きけり
今きこしたしなくもこの孔董草
百両の咲しに待りハ待しもの

若州や小野寺乃子供桜

まゐる日の入所あまり蘇りもせ

東西のむかし数しらぬ
またも山寺に数多ゆく
といふ日ハ三月廿日なりけり

蝶々ときゝ星も桜は降りしの花

天の代の大名し咲かて桜の春

根岸にて

山吹をし出しきゝる垣根ゝの花

鶯とさきゝあへるゝも蚕しの跡

桑まつ摘て育られゝる蚕の花

やよ鳥くゝ言ひつく春の行方へ

菜も佐無杉に繰りかゝ丘の嵐

舞ひくゝ包翌日あさきをちる花咲く数

ゆきのく吹く春の河をよ雑辺の草

隔出る時内ゝのうちくゝつ沈生ての花

地獄

夕月や鍋の中にて帰田仕し

餓鬼

其数や香くき水を生露

畜生

数世を佛とも法とも僧とも無のれ

修羅

聲聞縁覚菩薩の本性の佛性の各

人間

性菩提涅槃に成生の新

天上

寶日光菩提天人の所長屋

夏の新

下品一番組新羅三郎義光

おりの品表者なり文右

手出さく八千手出さく文右

ちんの日出新羅三郎義光 若衆

立ものう絵ふ無出さく

文庫この表紙まつけふ

おりう者組行国の新新初 裕

小兒の内本祝しる

たのもしやてんぢくの名ゆ給
春日野に若菜摘まん喰うて稽の如
南無ぶつてうてうぶつよりぶつ
人間ぶつ之勢ひ
人間ぶつ之勢ひ

岩尾

其ゆへ其用ん出家をこうく
ゑ羅くや赤い袋ゆ小形禮

大山詣

四五日ぶり水ゆ力をこのつく袋の如
夢ぶり有り有り歌ゆ出出

永日ふうらく四日ゆ有 延生佛
雀子ゆ有ゆ子法る甘茶の如
子ぶりこの口さん出ぶゆ 牡丹
扇ゆ尺を小ゆる牡丹の如
茶屋屋豆の赤い麥ゆ小大
大江戸ゆ有ぶ屋おゆを牡丹
鉢の如ぶ有ゆ交出れ
柿の葉ゆ出ゆ出ゆ
屋敷ゆ花ゆ出ゆ出ゆ
夕ゆ有ゆ有ぶ小袋の裏茶物

芭蕉のおきなの住たまひしあとをしのひ
てはなさけある福井のおきなの筆
通路に附子なるかれや杜若

二十四年茶只一把夢

茶屋し菜をうりしいとまあるの女
葉の木を植ゑにさりとてかは茶
ふさけて筆集の中をえらみて
弁のむねは悟る名代のなるちちの翁
弁かむや自の目わかぬ夢かな
我よし今に咲しく人よ盛なれ

かくまつて躑躅庭や茶葉吹
茶葉してさかりとふくれ梅の花
の蕾はおもきのさかりは咲にけり
弁のむねは告けとふかし住架の花
菴の昔をたつぬれは忘れ難し

禅寺

きよらしく帰塵とふや木下蔭
法袋の手まさもなにの文字立
大きな筒の体なる夏木立
筆の手不病は なき八なのりぞ

[illegible]の水[illegible]
世に出[illegible]
若竹と呼[illegible]
[illegible]の大[illegible]
[illegible]

老[illegible]
一[illegible]

我[illegible]
[illegible]
這度[illegible]
時[illegible]

[illegible]
[illegible]
世[illegible]
[illegible]
時[illegible]
[illegible]
[illegible]

宋宮
吉日の印月八[illegible]
[illegible]山

地獄へ堕ちて新しく来れる者の罪古る
業の世話おもふ心を生ずの罪古る
重き者をば口法きしり方り業
目出き者をば蚊の蚊まる時きり
蚊の勢ひ多れて強く責るが
育蚊の罪蚊の罪蚊の蚊の
蚊柱のおもきまく蚊の
蚊の多しかるまくきみまる猫の
我者の法見れ松魚の自然の
外国を考へる業の者

屋の蚊結来る者の品を
我者を口を吸て出る蚊の
像人を蚊を出ることを
屋の蚊を考へ出ることを
蚊柱の音を見る者の
事業を考へ吸の耳の
業庸を生の鐘の業の
若の親毎晩風呂
年月の仏法を生の
屋の蚊を法仏の

夢よりさめてつかみ料乃家
蝶の子をそだちくの身生まれ
かなしやとなくは汝が為国へ
まつてゐる妻子をおもひの通し鴨
網して蝙蝠の世もよかりけり
かやのあるき武門の世にも稀なり
吉原のかしこの付く室蛇の衣
羽蟻出る日出て粧ひの水
あけて虫籠をうちはなち行くる
雁の出る八は叢の暮まて後

手習の袖と冬ても晴ゝくの日
晴ゝの日なとかゝるて中にあり

妙義山

五月雨や板もかさねる山の穴

粧ひ坂亭若

そゝもなや蛍森しそきく田植唄
信濃路や上の上まで田うゑ唄
身一つをはなれて女
やまめの名所
女のへの里住舞てとく田うゑ笠

住よし

唐人も見よや田植の笛太鼓

早乙女や笑ひのまじる草の露

稽古笛田をはなれて来みたり

春も清しめ子の世なれぬや花の月

夏山や夕ゞきしたる人の女郎花

花ぐみに花あるを打かへる夜の月

小むしろや茶筌が中の夏衣

蓮の花出る汁に咲みだれけり

稲妻に行の風を直りけり

起して懸目引ある青田の札

豆腐屋の来る昼顔の咲にけり

夏の夜や二軒して見る家の月

源氏の影もなく

夕かほや男結の垣ほつれさく

日〻懶怠不惜寸陰

なみの日も稼の出よ空は文

あいさつ積る文もしのつゝみて涼しけり

手枕や秋なき人積のしのき

先生にする誰そに夜のなり

涼しくて積の明る積あしの秤

雛のまねをとうより幼君が字學すれ
初螢清以く出れども手風の飛ぶ
宗ゝあゝ川を越ゆよ飛ぶ螢
中ゆ螢のそ人の咲ゝち來
大螢内うゝのゝ通りゆ字

不忍池

螢火や咲き無を浪ハ猶先へ
きれいなる螢とならハ墨田川
夕月や大きく無以てゆきつかり
我袖を執とるの逃ゆる家

里俗いふこの見ゆるを
ゆかりとなす

此曲の降ゆらつきく人以ろしの飛ぶ
新や中のよろこぶ以ろの蝸牛
栄の石や綴の露りまゝのく清り
かく清かりおもろく聖れ不二の山
花かく見ゆ窓清きの夜あり洞技香
六月や月秋見への井に煤掃

小金原

母子の齒しけて春清みのれ
山里ハこるとこの中ゆも清水の飛

人参を蜂の水より注し　広
初広を門より出て蜂を追ふの事
三日目を過ぎて蜂巣を出し　広
行方井戸小魚と共に入り出
蜂人を山より出しの件　人出

吉限歌有限命

世界を不思議なる変生し業
蜂を生をめてなる変産業
生の件を扇をまくる出面
子を産れ歩行なる扇の丸

毎山を扇にしみ行自於
夕暮の時網を注る扇の形
乙牡を今産生る川家社朱扇
小産後の生産の扇の事
他の人時見ても解し変生き

猫糸坊を殺ふる蜂の形
丸八之男吉家とつかを

堀より時蜂を殺して抱とく
蜂時を我為も石みなる中
蜂時を変つ注く箱麻川
蜂の事を念仏を唱て変の蜂

豊年の祭りをなすつの堀
堀一ッ〻てハ第壹の舟〻の
世うよ〻ハそもそもひとつとまれ級の堀
付る堀を造りもるの水
やれ〻付る堀の〻もを造る
もの〻つるやを屋敷造ふ番拾ふ
番の跡の〻ものく者のうる信氣うれ
番焼て日和よ〻山番の水
番の第や世の中よく堀さらく
山堀の先りをもの中を通り番の

水の堀とうをを堀てをるをみをるる
新発祭
源〻さを郷のうをを無中り焼
番番番ひを造る
源〻のうん造ひてのう和義の水
出國指上
下番をもるる國〻の番ひを源舟
源〻さを堀を堀て番番番
四番ひの番
源歴年自を造て二文〻の丸

源氏弥陀成仏の時のこと
等事今出しらべて源氏物語
叡村の奥に多くあるなり夕源
氏とこの桶出るも出て夕源
氏月の源氏なる以前なるなり

人形町

人形町を出て源氏
の源人形町の所に源氏
稲子なるなり
形源氏竹の実を新潟の海

次源の笑ひ納めて行なるよ
源氏物語なるこまかに
なる物語の佛の井戸行なるれ
物語を源氏物語門内月
江戸住人
紗なるなるなる見物なるみ
おく住職より信
下しも下しの下國の源氏より
多竹上の竹なるなる多源

裏屋の後ろ
源氏の曲りくねる
五の窓や蓬よ吹きて夕葉侍
蓬結ぶよ出ぬく節の葉や
まつ出よりまつ
窓屋まつて先きよりかなる蓬のれ
羽井峠より
信濃路の山の葉より葉の葉
義の葉より宮へ行く葉のれ
冬岩あ中

葉葉の枝の葉の葉より葉
味直限まつ
屋角まつ
行のまつ
戸立や行
城の芝雲の
御水のつ出現
投出た足の先
川物
川の地蔵の

玉川

萩ちるや倉ぬる宿のかなしひ
麻の葉よ傷ぬ絵書て涼しきか
形代をうく吹ふせ萩ちる家
形代よきくゝ川をちる子しの笛
灯籠のやうな生も晩法後しの雜

秋の部

秋立や隅の小仏の小松島
物ゝ有仏性
秋来ぬと云ふ無物しの仏しのめく
星ゝ四秋ゝ
輝ゝ箇つゝ星ゝ
奪星ゝ以て牧蕎ゝん稲の出
夢出や稚の如ゝ糸瓜の葉

姫星の[illegible]をかさね桜の弟
七夕の秋只の星さへ[illegible]
星祭や[illegible]流しかつぎ
子宝の蛭[illegible]の[illegible]
腐中

うつそみや陸子の[illegible]の川
本芋山へ流さる[illegible]天竺川
[illegible]
息才て[illegible]
あの月ハ[illegible]

来の[illegible]墓[illegible]第 特
迎[illegible]
亡妻新[illegible]墓

うつそみや母の[illegible]
嵐屋[illegible]
玉棚や上座[illegible]

[illegible]

初[illegible]の場[illegible]
精霊の[illegible]舞の月[illegible]
山里や[illegible]

屋うらうら人のすまひや雲角力
茅ぶきを狙てしまるや後角力
板行よりて素色ものを負ふ横
掾ちらばや二文字ぶきの秋の孫
稲妻やうつのうらをとんとしらべへ
たのりやまうら蔦ぶきこの角
つれ月冥しのこの屋色ハ人を屋ふ

神前

秋風や竹も角力ぶる男山

この井戸ぶるをふしぎて

秋風や磯石ふるる古口山

病後

かなの新のやうなる手紙を秋の風
秋風ふ歩行てふるるちらるるの形

さらら女こ十五日

秋風やもりつ手紙ぶる赤口も
秋の色の吹ぶ色ハ植ぬ小杉の丸
秋風や壁ぶ壁ぶへマムシヨ入色
墨漆の味このこの板ちらり秋の風

山尺ちの上人十ちうりちるる
後住を紙しを迷化ぶりし長ちふ

秋風や雲を失ひて
森遥や雲を吹うしなふ星のうら

五十嵐ハ

霧なくなくハ大事社会世のれ
霧垂るや業後を越えるうつの山
霧ちるや地獄の種をうゑ蔚く
霧なくや伸出る事社事なうれ
火とぼして生ぬるや州乃霧

男女私ヲ忘レテ表ヲ表ニ
逐行セ歳列シテ

人間ハ霧ぬく若へよ合点この

雲を失ひて

霧の世ハ霧社世なのうち去なうち
霧ちるや世ちさんは世ヨ用ぬうと
秋霧や何系接ゑ見ゆちるて
霧ヨ成る国付きて伝蔓のぬ
何里ぬや海里の霧ヲ猛を這ふ
森のうちちるそ猛よれきうれ
石霧の玉ちんのうぬきくちそ
孫宿生社出ヨなる業のきうれ
数ちるや竹乃中ヨちうくそ

岩室にて法華経の講ありしとき

経堂

宝の庭を指して笑ひ給ふ

放庭宝節くこの塔招き給れり

宝塔をよ軒の調度のうし

宝分よ出るぬくと端坐ル

古太も塔別の唄よかんし点

法華うよ赤以出立のかんほうれ

二百十日

世の中ハよ出きふくしに芋の露

物好きの貴方よかる表露ル

法国出度者ハ乞食乃露

うゝ人も

甘以露を世代き連座しよれ

夕屋事も分れ露しを迷

新新も人の点ハ乞の分

墓も一番保て寺門出喫

新点社上のうゝ水も経山も

女帝も法のうこんと立うを

鬼竹を孫の小猫みとれきす

萩寺

[illegible]屋[illegible]萩の寺
年[illegible]殊数掛て折[illegible]の花
仏事[illegible]の[illegible]
女[illegible]一枝[illegible]
入[illegible]
数花[illegible]の図[illegible]
種花[illegible]の小[illegible]
[illegible]
[illegible]水[illegible]本種[illegible]

[illegible]
萩の末花[illegible]
江戸川[illegible]
[illegible]
[illegible]

福中

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]山

[illegible]月の[illegible]側の[illegible]

朱雀

[illegible]月や[illegible]を[illegible]の[illegible]出

[illegible]川毎留

[illegible]月や[illegible]拾先乃[illegible]所山

[illegible]

小[illegible]

[illegible]月

[illegible]合の山[illegible]月

月[illegible]

人[illegible]月[illegible]先[illegible]秋[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]原川や[illegible]岩山[illegible]秋乃月

春[illegible]孫祝

四の月[illegible]男松のいきみ[illegible]

望の[illegible]月[illegible]合の節[illegible]

月[illegible]月[illegible]大の月[illegible]

[illegible]月の[illegible]

朱[illegible]月[illegible]八[illegible]の[illegible]や[illegible]佐[illegible]

秋の京都にて人を問へば
秋は和尚の里なりと
なつかしさに社なつかしも秋は和
尚の遺教なるよ

母の為紀行の序
なきそれなるや笈をはらひて秋の蕎
麦なりけり住ハとしも姥捨蕎

病後
思ひやつれ居の心の蕎
麦の花を蕎麦の花にて秋の蕎
麦なるべ人と生まれあまの蕎

八月廿九日蕎麦を打
本業の時の蕎麦これ
この度八月廿八日の打なり
けりもふ今八六十年の昔
昔なつかしおのれ秋絶えなんとす
一ツ殺の蕎麦なれ
きれきの蕎麦
きもんの蕎麦
蕎麦を打ちて四百余里の
世を八度
思ハしきの蕎麦

近つき社樂書屋にて秋乃蕎

蕎屋方にて日暮れ
去園の主方にて夜食

かな書や親よりの字を教へける
六十にあまりて遠き教へけり
かな書きを去年や合点のよしあしの
はかなくも骨折るしとちは教へけり
集遊や歌よみて衛書き
教へ書や墻の葉花の新清
かな書や姪娚の唄も一教へ

若僧の扇面に

新清は融よ教へのはき出行

旅

一人は帷面に清く教へての夢
孫のしらぬ本首の教書に古ひたり
行燈を細千書て横への那
草藪に実の代を吹小教を習く
窗の教や清以構りある小教様
扇に物すなり小教を習く
紋ありなり脹ひにたり夕まぬく

豊秋

二軒家や二軒餅つく秋の窗

外ヶ濱

七月二十八日出府之出立森よ
初府の三組も等外なる事
小組も峠おろしなる小田の原
初府や行くて来る富の嶺
初府や芒ハもねる人も遠ふ
　　橋を行くて
府峠や行くて重も所見
初府も行くて意乃清井清
白川や曲り直して天津原
信濃雪ふり

四の原や里の人数ハ減ず
おもふ行くて直ち小田乃原
て休原おもしこの松ハ枯ぬ
新乃や峯の小雀ハ別れ
主時ハいまハ先夕の雨
夢ハ覚ぬ峠ハ法の富ハ
峠も八宮乃川ハ新よ純も
見ハ松ハ蒼の雪
山乃や梅の上ふる若乃春
春峠や原山の若も重ハ

七月十八日朱雀を出る雁より
初雁の三羽も羊蹄なるよ事
小組を味おもふ宮小田の雁
初雁や行くすゑ来る雁の畠
初雁や芒八ものを人を遠ふ
　　橋を行くすゑ
雁啼や行くすゑ北を月見
初雁を水ゆくまもし意乃淀井清
白川や曲り直して天津雁
　　信濃雪ふり

四の雁や里の人数ふるも減ず
おもはるる直を明るかり小田乃雁
て休雁おもしこの松を八ものなり
秋乃や峯の小雀社刈刈
立時はいもの先夕の秋
夢絶らや蛇も法の窩小へ
蛇も八宮ふり刈ものよ純を印
見蛇を蛇蒼の出ます
山ものや稼の上なる若乃峯
峯時や原山の若も重蛇

[illegible]や二三町遠てうち先
屋さき[illegible]や[illegible]を遠て山
人行[illegible]を[illegible]や田番小屋
[illegible]
日本[illegible]ケ浜[illegible]
旅人の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

人[illegible]
種芝や細きこんのまわりの[illegible]
[illegible]
つ[illegible]菜や[illegible]
[illegible]の物[illegible]の[illegible]菜の[illegible]
大菜や[illegible]
[illegible]奥き[illegible]
[illegible]と菜大[illegible]菊の花
菜[illegible]や[illegible]
[illegible]菜[illegible]

后の月

月は夜半八十三そもそもこのみ
名不名菓
夜梅も回し係りて五四川
梅花の水流れ拭ふ名菓のみ
大寺は行方きそうり夕名菓

毒草

人もそもそる草もそもそ毒しもそ
大草る蘭も時を行きり
草物のこうもそ変る落のみし

戸隠山

初梨の実このうち降さ社人の名
柿の木そこの名と蓋つる小僧名
小布施
拾ひ小松栗の見るよ大きよ
柿の実や菓も栗の木を

我味の坊猫へ言ひ菓の外

老の身ハ今のうき事さも若は
なりぬ

山寺や萩の散ぬ時雨の雨ぬれて
秋の散ぬ時雨の雨ぬれて
庵の数や山の雨ぬれて
木枯や鶴の鳴ぬ小制れ

九月尾

今日ハ今ハ時雨ぬれて
行秋を尾花の末の川の水

やうの雪ぬれて時雨ぬれ初しぬれ

蕉先生雪庵元吉

雪第五秋四五文や夕しぬ
牡丹餅の来へ雪ぬれ初時雨
雀涉雪程ハ葉も行ぬ時雨
初しぬれ夕飯買ふ出ぬ
時雨初ハ新も降ぬ片山家
日さし鶏ぬ時雨

[illegible]川越に独り一時の
間の[illegible]歌[illegible]
旅
[illegible]
青葉や[illegible]
葉[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

人[illegible]
悼
[illegible]
盗人[illegible]
[illegible]
業の[illegible]
業[illegible]
[illegible]十[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

桃青霊社

法会にかけ奉新しき道
其世ぞ居やむかしもまたく猿風
義仲寺へ急は其川し道
其世ぞ居や霊前の鐘乃ゆく庵
其世ぞ居に丸以て安社枝霧られ
降雨も小春なりけり知恩院
椎先の紙もむらし小春の水
法も越し給て餅伴ふ出しかな
素山

柿萩やこほしてたまる秋の霜
人足も霜の朝時や王子　乙
霊まで生きるものの霜社鐘
中仙　乙
霜の朝や折れたる尽掛て銀抑く
猪上乞台
母親を霜よけにして春と子かな
小松葉の一丈把や冬の霜
退分
霜の朝や鐘の音みてのく小佐埜

[illegible]

一人、孫　[illegible]

次社号の所[illegible]

一文半一ヵ銭[illegible]

[illegible]

上世の禁[illegible]牛の[illegible]

[illegible]

人の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文化六年十二月十五日
賀四郎大川氏

木枯や子代は八千代万の榎
[illegible]
木枯や雀も口を千住の[illegible]
木枯や行く秋踏ん万上総山
水仙や大仏合せ参り[illegible]
[illegible]仙や[illegible]ん[illegible]飛ん山
[illegible]峨村と[illegible]
[illegible]葉[illegible]は[illegible]

[illegible]葉の[illegible]数も[illegible]
掛[illegible]の[illegible]林も数本葉
[illegible]葉[illegible]三月[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]葉[illegible]
[illegible]細も[illegible]木葉

花鋤委地[illegible]人叔

[illegible]
枯芒[illegible]
[illegible]葉[illegible]
如[illegible]人の因[illegible]

木瓜の株荷つくる帰り出
大根引大根を荷へる
其大根引きたる
鶏鳴く當師大根今も売る
雑子なる粗略なる大根引
尼寺も二人うつて大根引
時雨其大根を今引き
蛇羅も行く通り東の向
炭窯のたる仕事世話
紅時なるく炭の株焼くれ

炭の焼や鶏の鳴る行き通り
炭屋の隣も行き通る炭
炭の焼み峰の松風通り
炭の焼る自炭高帰みまる
樽の焼る焼き炭の時
樽結ひや因出度代の新
樫木を伐り
怪焼る桂の鶏や寺書
旅
新嘗の我大蛙に寄り

峰峨山

[illegible]

飯笹

[illegible]

小人閑居成不善

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十二月廿四日 [illegible]

[illegible]

一菜麩井の [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出始を祝ひ[illegible]
大[illegible]八月[illegible]
一教[illegible]八出来[illegible]
[illegible]念仏[illegible]
[illegible]垣越の貧[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

夕月や法隆の色一善光寺

念仏相續

弥陀仏の[illegible]
[illegible]を拾ひ[illegible]

節分

福豆や[illegible]梅干や[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

以ちの屋ゝ芝ゝ上よ重ゝ生れ
出崎
君の代もかゝる人ゝ集て年籠
雜
おのつゝ沈の下なる神酒山
掃溜へ移社下ゝ和歌の浦
月出も四十九年社出ゝ出り
移社子の子代も一日大ゝ有無
仲ゝの大のゝゝ老乃松
牧人出千賀

きゝ〻〻仲社雀も出よゝ中
琵琶湖
袁殿のいゝつゝ社ゝ歩ゝ不二の山
天下茶一番
松蔭ゆ森ゝ吟ゝ六十金物ゝ乃

[illegible]

世の中の[illegible]

夢[illegible]

[illegible]

古歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天保十四癸卯年
[illegible]川の住[illegible]
[illegible]
[illegible]園主人

周防山口白石
素村素誠

今井[illegible]右衛門輯

[illegible]永元戊申[illegible]新雕

十軒店
英大助
江戸書林
通[illegible]丁目
山城屋佐兵衛
[illegible]光寺大門町
菅屋佐五郎